

2025 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

事業名 樹木粉碎機を活用した木材の有効活用 2025 年 1 月 17 日～12 月 13 日

合計 31 日 参加人数延 230 人

団体名 NPO 法人森のおさるさん

森のおさるさんと記入されたヘルメットで、県道脇や、山で草刈機を使ったり、チェーンソーで木を切る姿で地元ではおなじみの NPO が、そのスキルを買われて始まった樹木粉碎機を使って、伐採した樹木をチップに（葉や樹木の粉碎物）加工して、きのこ菌と混ぜて餌として糸状菌を増やし、窒素の代わりに炭素を使う「炭素循環法・たんじゅん農法」を実行。窒素を含まない美味しい野菜を実現する仕組みづくりに取り組んでい余す。チェーンソーで木を伐採。ロープウインチ等を使って集積。粉碎機。畑に配布。きのこ菌投入。野菜作り。このサイクルで実行してきました。



樹木粉碎機コンベアー付きダンプへ



糸状菌が肥料に変える

窒素の苦みエグミ無

山には切らなければならない木がふんだんにあります。これを活用して無農薬肥料として使えればという点に着目しています。作業はきついですが、昔からの農村の風習「出合い仕事」は、皆で協力し合うという点で、ゆしみも見つけられます。しんどくなったら「お茶にしようやー」という声が自然に出ます。リーダーはこれを無視しないで実行します。重労働の疲れもとれ、たんじゅん農法の今後について話も弾みます。高齢化が進み、限界集落ばかりになった地元になんか少しでも貢献ができるよう話題は尽きません。

事業期間の後、今年 4 月、協力隊の事業として、耕作地の畦畔部に植えられて咲き誇りちょっとした名所になった「芝桜の里」のイベントとして産直品を販売するという事に協力したいが、時間が無いことに対し、保温促成栽培ビニールハウス案が出た。ビニールハウス購入費が頂けると嬉しい。

竹パウダーを製造するのも小型の樹木粉碎機。竹パウダーは道の駅でも売られている程知られた商品。比べるとまだままだの間のある樹木チップ。無農薬栽培、有機農業であることと、ずいぶん高くなった化学肥料。これらの代替となる炭素循環法を確立するため、チップー（樹木粉碎機）で頑張ります。